環境経営レポート

（対 象：第４６期）

２０２２年４月１日～２０２３年３月３１日

おいしさを心でつくる

EA21とFSSC22000で安心・安全を未来へつなぐ

エコアクション21
省エネルギー、廃棄物削減等
環境保護に取り組んでいます。
エコアクション21 認証番号0010327

松田食品工業株式会社

発行日　2023年9月27日

環 境 経 営 方 針

基本理念

私たちは、「おいしく、健康、安心、安全」で、お客様から信頼され、喜ばれる商品創りやサービスと、かけがえのない地球環境を大切にする企業活動をめざします。

松田食品工業株式会社は持続可能な社会の構築に向けて、環境負荷を削減するための継続的な改善をしていきます。

環境経営方針

松田食品工業株式会社は、経営における課題とチャンスを明確化にして、つぎの環境目標を掲げ、環境への取組を行います。

１．食品廃棄物排出量削減。そのために適正な生産計画、工程管理と販売促進及び再生利用を進めます。

２．二酸化炭素排出量削減。節電及び省エネ活動を進めます。

３．食品以外の廃棄物の排出量削減。そのために消耗品の使用量削減、及びリサイクルを進めます。

４．水使用量削減します。

５．グリーン購入。購買品の選択時に環境に配慮します。

６．当社の製品及びサービスに関する環境配慮します。

７．環境関連法規等を遵守します。

本方針を全従業員に周知徹底します。

２０２２年４月１日

松田食品工業株式会社
代表取締役社長
松田　浅三

❖ 計画の策定（Ｐｌａｎ）

◆ 組織の概要

事業者名	会社名	松田食品工業株式会社
	代表者	代表取締役社長　松田 浅三
所在地	本社	〒544-0005　大阪市生野区中川 5-12-7
	本社工場	〒544-0005　大阪市生野区中川 5-4-21
	第二工場	〒544-0006　大阪府大阪市生野区中川東 1-12-24
	東京支店	〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町 1-6-8　第二久ビル 8 階
	名古屋営業所	〒462-0825　名古屋市北区大曽根 2-10-11
	福岡営業所	〒812-0863　福岡市博多区金の隈 3-7-13
環境保全関係の担当者連絡先	環境管理責任者	代表取締役副社長　松田 大治
	担当者	ISO 推進室　松井 宗行
	連絡先	電話：06-6758-5501　FAX：06-6758-6680
事業内容	大豆加工食品、寿司具材等そうざい類の開発及び製造	
事業規模 (2022 年 4 月 ～2023 年 3 月)	年間売上高	6, 765 百万円
	人員	従業員数 250 名
	延べ床面積	4,521.08 ㎡

参考

関連会社

株式会社京都庵　本社工場・篠山工場（認証・登録番号 0002533）

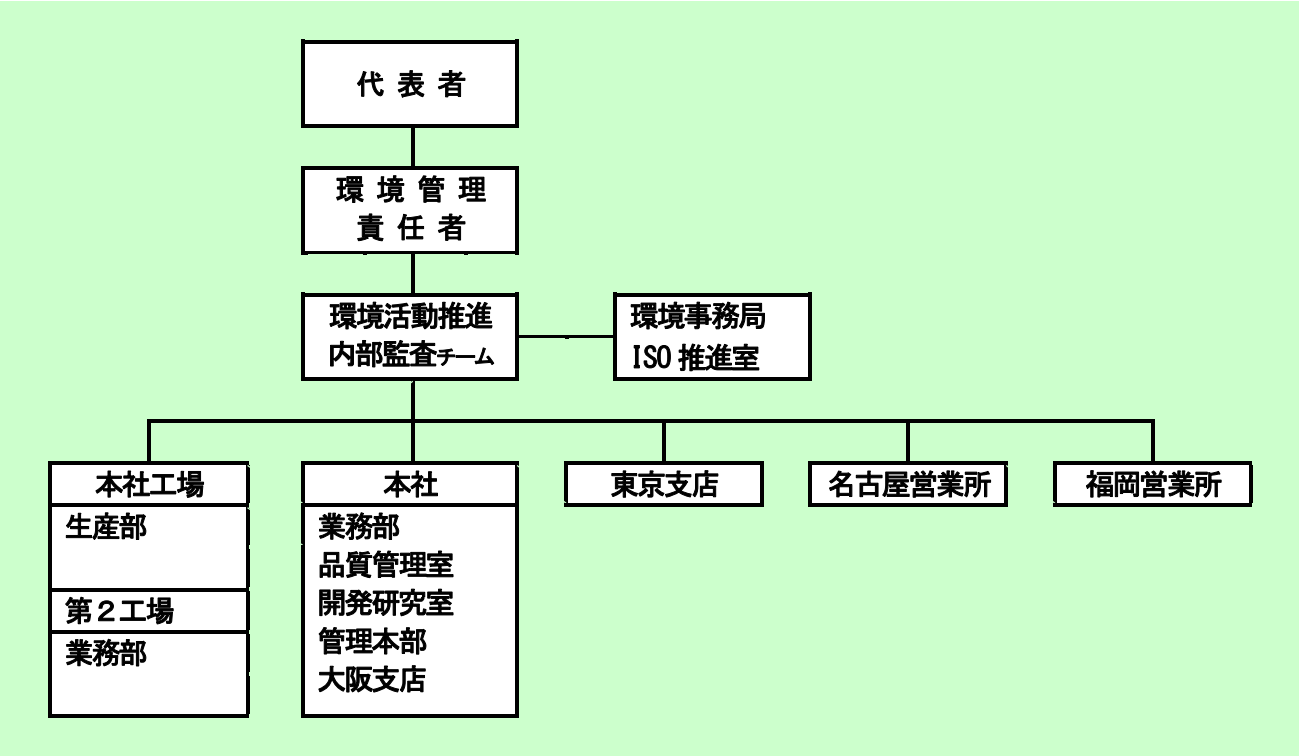
も EA21 認証取得しています。

◆ 認証登録の対象範囲・活動

（1）認証登録範囲

登録組織名：　松田食品工業株式会社
関連事業所：　本社、本社工場、第２工場、東京支店、名古屋営業所、福岡営業所（全組織）
対象事業活動：大豆加工食品、寿司具材等のそうざい類の開発及び製造（事業活動の全て）

（2）組織図



（3）各事業所・部門で発生する環境負荷

○：環境への負荷を数値で表せる　ー：該当せず、または、環境負荷を数値で表せない

		本社工場	第２工場	本社					東京支店	名古屋営業所	福岡営業所
		生産部	業務部		品質管理室	開発研究室	管理本部	大阪支店			
廃棄物排出量	食品廃棄物	○	○	○	○	○	―	○	○	○	○
	その他の廃棄物	○ 本社・本社工場・第２工場の合計							―	―	―
二酸化炭素排出量	電力使用量	○	○	○（本社５部門の合計）					○	○	○
	重油使用量	○	―		―	―	―	―	―	―	―
	ガソリン使用量	―	―		―	―	―	○	○	○	○
	軽油使用量	―	―	○	―	―	―	―	―	―	―
	都市ガス使用量	○	―	○（本社５部門の合計）					―	―	―
水使用量		○	○	○					―	―	―
化学物質使用量		○	―		―	―	―	―	―	―	―

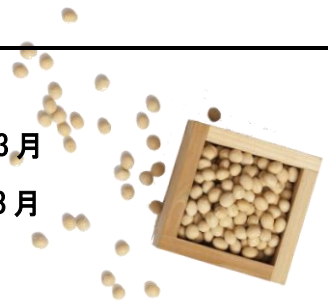
◆ 環境経営目標及び計画

ガイドライン指定項目	環境経営目標及び計画	備考
廃棄物排出量 削減	・食品廃棄物発生量削減 基準 年度　第 31 期（平成 19 年度） 排出量（推計）　82,723 kg （参考値：売上高原単位　13.1kg /百万円） 各期の目標（発生量、再生利用等実施率） 第 46 期※1：44,414 kg、50 % 第 47 期　：43,526 kg、51 % 第 48 期　：42,638 kg、52 % ・食品廃棄物以外の廃棄物の削減 ・・・分別の徹底、廃棄物の再生利用委託等	[基準年度の発生量] 82,723 kg 37 期に次の計算式で 31 期を設定 第 31 期工場原材料廃棄量 ×第 37 期食品廃棄物全発生量 ／第 37 期工場原材料廃棄量
二酸化炭素排出量削減	・電力使用量・・・第 43 期を基準として現状以下 第 46 期目標 使用総量　1,694 千 kWh （参考値：生産量原単位　8,511 kWh/百万枚） ・重油使用量・・・第 43 期を基準として現状以下 第 46 期目標 使用総量　386 kL （参考値：生産量原単位　1,938 L/百万枚）	電力使用量は、当初は基準年度からの削減目標で取組を進めてきましたが、3 年前から現状以下の維持目標としています。 重油使用量も、同上の運用です。 生産量は味付け揚げ枚数
水使用量削減	・本社および本社工場の使用量 ・・・第 43 期を基準として現状維持 第 46 期目標　10,651 L	水使用量削減も、同上の運用です。
化学物質の使用量	・苛性ソーダ使用量 35.4 kg ※ 廃棄物の適正な廃棄	食品安全のための清掃用に使うもので清掃頻度に左右されます。
グリーン購入	・物品購入時に環境に配慮した物品の選択 ・適正な数量の購入	SDGｓを考慮しながら、優先選択使用しています。
自ら生産・販売・提供する商品及びサービスに関する取組	1）商品が得意先で使用される際にロスになるのを減らすための取組 2）小口配送集約と物流ルートの効率化	新製品開発や高付加価値化、並びに生産性向上の道具として EA21 を活用していきます。

※1　決算期変更に伴い、環境活動の期間を下記のようにしました。

第 39 期：2015 年８月～2016 年 7 月　　第 46 期：2022 年 4 月～2023 年 3 月

第 47 期：2023 年 4 月～2024 年 3 月　　第 48 期：2024 年 4 月～2025 年 3 月



◆ 環境経営中期目標と実績

項　目	第43期	第45期		第46期		第47期
	実績	目標	実績	目標	実績	目標
電力使用量		現状以下		現状以下		現状以下
・総使用量（MWh）	1,694	1,694	1,650	1,694	1,648	1,694
・生産量百万枚当たり(kWh)		8,511	8,558	8,511	7,837	8,511
重油使用量：以下の現状以下		現状以下		現状以下		現状以下
・総使用量（kL）	386	386	352	386	329	386
・生産量百万枚当たり（L）		1,938	1,876	1,938	1,706	1,938
食品廃棄物発生量（kg） H19年度82,723（kg）		44,670	52,451	44,414	54,931	43,526
・再生利用等の実施率（%）		48	50	50	42	51
水使用量（m^3）（本社、本社工場）	10,651	10,651	9,604	10,651	8,829	10,651

❖目標と計画の実施（Ｄｏ）

食品廃棄物

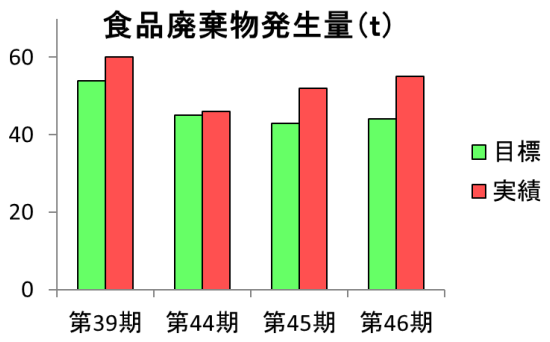
第39期と第46期の実績　　（食品廃棄物発生量の目標は、売上高が前年度と同じであることを前提としています。）◎成果大、○ほぼ達成、△少し未達、Ｘ未達

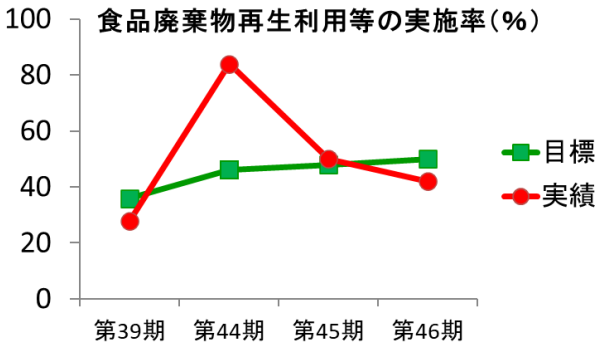
項　目	第39期	第46期			
	実績	目標	実績	目標達成度	
				実績／目標（%）	
電力使用量（MWh）	1,755	1,694	1,648	97.3	○
重油使用量（L）	477,300	385,700	329,100	85.3	◎
食品廃棄物発生量（kg）	60,002	44,414	54,931	123.7	×
再生利用等の実施率（%）	28.8	50.0	42.0	84.0	×
水使用量（m^3）（本社、本社工場）	12,533	10,651	8,829	82.9	◎

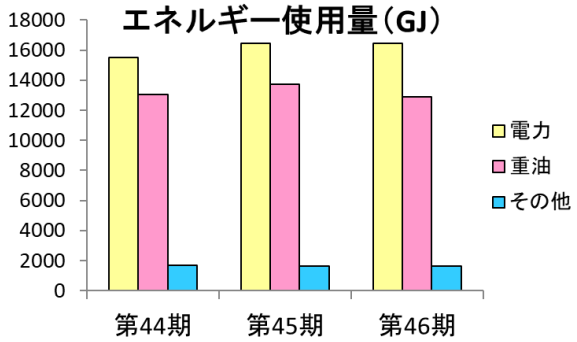
※ 第４６期 食品廃棄物 再生利用等実施率（＝　42.0%）に関する内訳

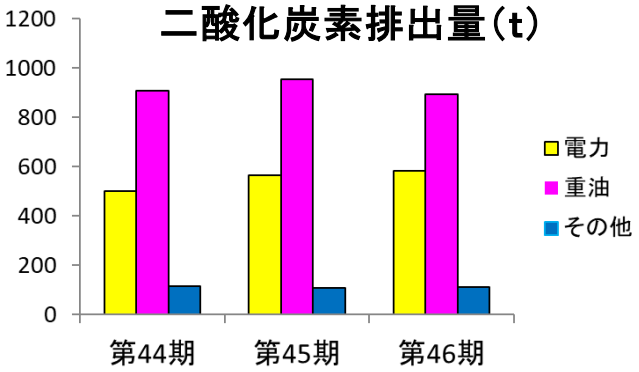
発生抑制量　33,898 kg
再生利用量　　3,440 kg
廃棄物としての処分量　51,491 kg

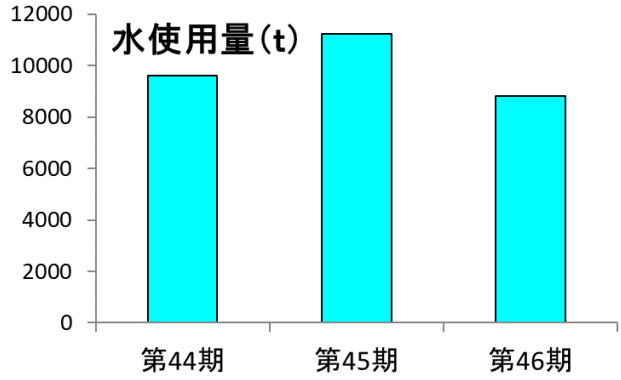
◆ 過去３年間の実績











真心　行動　継続　感謝
スピード

◆ エネルギー使用量と二酸化炭素排出量（第 44 期～第 46 期）

項　目	第 44 期		第 45 期		第 46 期	
	発熱量 (GJ)	二酸化炭素排出量（t）	発熱量 (GJ)	二酸化炭素排出量（t）	発熱量 (GJ)	二酸化炭素排出量（t）
購入電力	15,533	500	16,452	580	16,433	581
(関西電力排出係数 kg-CO2/kWh)		0.318		0.350		0.351
重油	13,071	906	13,751	953	12,868	892
その他（ガソリン、軽油、都市ガス）	1,707	114	1,613	108	1,656	110
合計	30,311	1,520	31,816	1,641	33,957	1,499

第４６期の排出係数：工場・本社0.351、東京支店0.443、名古屋営業所0.379、福岡営業所0.480 を採用
（令和４年発表の排出係数を採用）
その他に記載の項目は、省エネ法に関連しての把握項目（係数は省エネ法準拠）であり、目標管理はしていません。

❖取組状況の確認及び評価（Ｃｈｅｃｋ）

◆ 第 46 期の取組結果とその評価、今後の取組　　◎成果大、○ほぼ達成、△少し未達、Ｘ未達

目標項目と取組計画	達成状況	活動計画取組結果の評価・今後の取組内容	
食品廃棄物削減 ・販売見込みに基づく生産計画 ・生産工程管理とロスの削減 ・サンプル作製量、入手量の適正化 ・在庫量の管理と販売促進 ・再生利用への委託	目標（売上ベース） 排出量　44,414kg 再生利用等基準実施率 50.0 % 実績（売上ベース） 発生量　54,931 kg 再生利用等実施率 42.0　%	×	食品リサイクル法の基準実施率未達。今後も発生量を削減する努力を続ける。その上で、リサイクルにより排出量の削減を上乗せする。
電力使用量削減 ・生産機器のメンテナンス ・不使用機器のスイッチオフ ・エアコン適温設定 ・クールビズ、ウォームビズ	前期実績：1,650 MWh 今期目標：1,694 MWh 今期実績：1,648 MWh 削減率 0.12 %	○	今後も効率的に電力を使用していく。老朽化した機器類の更新、ＬＥＤ化を進める。
重油使用量削減 ・ボイラーの点検、新規更新 ・適正条件での使用	前期実績：351,700 L 今期目標：385,700 L 今期実績：329,100 L 削減率 6.4 %	◎	電力使用量と同様従来レベルを維持したといえる。エコノマイザーによる熱効率の向上、台数制御装置での運転適正化。
水使用量削減 ・使用後の蛇口閉め忘れ注意 ・容器からの漏れ、あふれ出し注意	前年実績：11,220 ㎥ 今期目標：10,651 ㎥ 今期実績：　8,829 ㎥ 削減率 21.3 %	◎	必要な水の使用量は減らせないが、ムダにすることなく使用していきたい。
その他の廃棄物削減 ・廃棄物の分別 ・再生利用業者への譲渡	紙ゴミ、空ビン・あき缶、廃プラ等をリサイクルに回せるように適切に分別	○	廃棄物一般、廃プラスチック排出量を減らした。今後もこの活動を続ける。
グリーン購入 ・物品購入時に環境に配慮した物品の選択 ・適正な数量の購入	事務用品のグリーン購入の継続実施	○	事務用品のグリーン購入は定着した。 ＯＡ機器の機種を選択する際に環境性能を考慮したい。
化学物質使用量削減 ・NaOH を使用(PRTR 非該当)	フレーク使用量 35.4kg	○	除菌と洗浄用に使用
自ら生産・販売・提供する製品およびサービスに関する取組			
1) 商品が得意先で使用される際にロスになるのを減らすための取組	・商品の使用条件の確認、必要な対応の実施	○	ロスの状況を報告書や社内定例会議で共有、必要な対策の確認と実施を続ける。
2) 小口配送集約と物流ルートの効率化	・得意先と受発注条件の改善交渉 ・日々の物流の集約	○	小口配送の集約や日々の物流ルートの適正化を続ける。

◆ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

（１）環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

主な適用法規等	該当する活動	遵守状況評価	
食品リサイクル法	・再生利用等実施率 50.0 %以上 ・食品廃棄物排出量 100ｔ以上の場合は報告義務あり	○	・2022 年 4 月～2023 年 3 月の再生利用等実施率 42.03% ・年度排出量約 55ｔ ★ 基準以下のため報告義務なし
廃棄物処理法	・一般廃棄物、産業廃棄物は分別、可能な限り再生利用 ・保管場所の表示、飛散・浸透防止 ・水銀使用製品の適切な保管・廃棄	○	・運搬業者、処理業者との契約書締結と許可書の入手 ・マニフェストの管理
毒物及び劇物取締法	・保管場所の表示 ・保管場所からの漏洩防止	○	・苛性ソーダの出納管理
省エネ法、温暖化対策法	・電力、重油、ガソリン、軽油 及び都市ガスの使用の合理化 ・原油換算エネルギー使用量 １５００ｋＬ以上の場合は報告義務あり	○	2022 年 4 月～2023 年 3 月の原油換算エネルギー使用量 ７９９ｋL ★ 基準以下のため報告義務なし
大気汚染防止法	・ばい煙発生施設届（ボイラー） ・ばい煙排出基準の遵守	○	
水質汚濁防止法	・貯油施設からの重油流出防止	○	
騒音規制法、振動規制法	・コンプレッサーの設置等届出	○	
消防法	・防火管理者設置（工場 及び 本社） ・少量危険物設備として届出、管理（ボイラー用重油タンクの容量 2000 Ｌ未満）	○	
フロン排出抑制法	・定期点検の実施 ・３ヶ月ごとの簡易点検の実施	○	

地域貢献活動

（外部コミュニケーション）

●AED 設置と使用手順講習会

●地元の一斉清掃に参加

●災害用保存製品開発

顧客の第二者監査

（外部コミュニケーション）

（２）違反、訴訟等

環境関連法規への違反や訴訟はありません。また、関係当局よる違反等の指摘は受けておりません。環境関連法規の遵守状況をチェックし、問題がありません。

（３）防災教育

新型コロナウイルス対策で２年間消防訓練は中止していましたが、２０２２年７月７日に３年ぶりの訓練を生野消防署の方４名に来社していただき、本社３階事務所で火災が発生したことを想定して①通報訓練、②避難訓練、③消火訓練、に分けて実施しました。避難訓練では消防署員の方から「統率が取れていて避難も早くて良かったが、実際の火災現場では煙があるので焦らず、走らず避難するようご指導いただきました。消火訓練でも消防署員の方にご指導いただきながら参加者全員が水消火器を使った初期消火の訓練をしました。

❖代表者による全体の評価と見直し・指示（Ａｃｔ）

コロナウイルスによる行動規制等はなくなりましたが、予期せぬウクライナ情勢、気候変動や為替相場などによる原料価格、エネルギー価格の高騰があり、更に未だ予断を許さない状況です。本社工場ではロス削減への取り組みに加え、生産設備の更新や製造環境の改善を積極的に進めており、省エネルギー化と環境衛生に一定の効果が出ていることが確認できました。食品製造事業者として、おいしくて安心・安全な製品をお客様へお届けすることが最重要なことであり、弊社では 2017 年に ISO22000 の認証を取得し、2022 年には FSSC22000 へ認証を移行して運用しています。

環境への取り組みは、未来の向けた持続可能な循環型社会実現に貢献するＳＤＧｓや食品ロス削減、省エネルギー化、現有人材の育成などに向けた取り組みが社会的な動きとなっている現在にあって、弊社も乗り遅れることなく成果を出していきたい。

食品製造事業者として食品安全と環境活動への取り組みをＳＤＧｓの主幹にして社会貢献をし、企業価値を更に高めていきます。

（今後の取組における改善、変更等）

食品関連事業者向けガイドライン　2017 年版に沿って活動しています

・環境経営方針	□あり	■なし	・環境目標	□あり	■なし
・活動計画	□あり	■なし	・環境経営システム全般	□あり	■なし

以上

ロゴマークはM　（ＭＩＮＤ　真心）

Mのマークをかたどった３本線は

未来の方向に向かってまっすぐ伸びています。

それぞれ　【愛・情熱・信頼】を意味し

燃える情熱を象徴する赤色を採用しました。

ＳＤＧｓについては、EA21 や FSSC22000 のマネジメントシステムを通じて、下記の目標取組を宣言します。

SDGs の取組目標

3．すべての人に健康と福祉を
4．質の高い教育をみんなに
7．エネルギーをみんなに　そしてクリーンに
8．働きがいも経済成長も
10．人や国の不平等をなくそう
12．つくる責任　つかう責任
13．気候変動に具体的な対策を